

オンライン子ども世代の介護者の集いの 拡充と調査研究

一社) 久留米健康くらぶ

〒830-0023 福岡県久留米市中央町35-1

助成事業の概要

認知症当事者の子ども世代 (50 歳前後) を対象とした「オンライン介護者の集い」を月 1 回第 3 土曜 20 時～ 21 時半にて、毎回 3 部構成で [1] 専門家のお話し (20 分) [2] 当ほっとカフェの 8 年間での事例紹介 (20 分) [3] 質疑応答 (事前に各参加者から質問・疑問を頂き) 介護者の悩みや相談も個別でラインでやり取りを行っている。

又、将来の全国的展開を視野に認知症カフェでは先駆的な京都地区及び政策の総本部である厚労省始め、関東地区の認知症カフェの仲間との共有化を図り、課題や問題点等を調査研究する 1 年となればと考えています。

全国でも事例のない子ども世代を対象としたオンライン介護者の集いの久留米市内で普及拡大を図ると共に、京都や東京地区他での認知症カフェの課題等も調査を並行して行う。

事業の成果

1. オンライン子ども世代の介護者の集い

○毎月 1 回第 3 土曜の 20 時～ 21 時半にて開催し、リアル参加は 6～7 名で他は後で視聴！子ども世代は、50 歳前後～ 60 歳前後でまだ仕事で忙しく、リアル参加が難しい状況ですが約 2 年半経過して、介護負担の環境や内容は色々違いますが、参加者からも大好評でお互いのライン上で苦労話や癒しとなり横横の関係づくりにもなってきており、若い世代の参加者同

士の励ましや声掛け等で介護負担の軽減に寄与している。

○新規の参加者もこの 1 年で 3 名となり、認知症なんでも相談室にいられた方々にオンライン笑進の会 (子ども世代の介護者の集い) を紹介して、参加して良かったと継続している。

○只、昨年度は認知症カフェの運営をコロナで休止した事での新規参加が減ったが、2024 年度は、4 年前から準備してきた住民型認知症カフェが、新規で 10 か所開設され、添付の相談ネットワークにより、各カフェとの連携での拡充を期待している

2. 京都・名古屋・関東地区・神戸地区等での認知症カフェの調査研究

○コロナ後のオンラインでの認知症カフェやセミナーそして我々が取組んできたオンライン介護者の集いの紹介及び情報交換会で、一定の評価を頂き全国的には今からの試みとなればと思います

○各地区の調査研究の報告会のまとめを参照！⇒その結果で言えることは、

[1] 10 年経過した認知症カフェの運営で、コロナ等で半分以上が休止の実態が判明

[2] その要因は、認知症カフェの運営者が福祉法人・病院・地域包括直営が約 70%の為、スタッフ不足もあり、再開が難しくなっており今後とも厳しい状況にある事が判明

[3] 久留米市で取組んできた住民が主体に運営する『住民型認知症カフェ』を各小学校校区単位に開設する取組や子ども介護者を対象の

オンライン笑進の会には、驚きの共感を頂き、今後の各市町村や認知症カフェ運営者への啓発が出来たと考えます

休止で低迷する認知症カフェ開設運営を打破していく為に、各地域での住民型認知症カフェを含む認知症カフェの新規開設促進を図っていく予定です。

成果の広報・公表

第 1 回調査研究：京都地区～名古屋地区～町田市～八王子市～東京地区

○7/23 の報告会

第 2 回調査研究：福山市～神戸市

○12/1 久留米健康くらぶ・住民型認知症カフェ連絡協議会にて報告会

第 3 回調査研究：福岡県内の市町村窓口 8 ヶ所及び認知症カフェ運営者 12 件を訪問

4. 将来は、福岡県外での拡がりも期待しており、コロナ禍で学んだオンラインの活用を広げながら認知症カフェの総合的展開を図っていければと考えています。

今後ともご指導ご支援を宜しく申し上げます。

今後の展開

1. オンライン笑進の会（子ども世代介護者）については、従来のメンバーに加え、各地区に開設の住民型認知症カフェとの連携で、5 つの相談会も含め拡充予定です。

2. 特に子ども世代の介護負担は深刻で、介護離職にも繋がるような事例も増えており、お互いが疲弊して、子ども世代が精神的ストレスで体調不良やうつ症状になっている事例もあり、このオンライン笑進の会に参加する事で、認知症を正しく理解して接し方を学び、介護の苦労や負担が自分だけではない事を知る事だけでも精神的な重荷が軽減されます。

3. 2024 年度は、このオンライン笑進の会の実績を踏まえて、福岡県内の認知症カフェ運営者を対象に「福岡県認知症カフェオンライン交流会」を主催し、[1] 認知症カフェ運営の課題解決 [2]